

# 令和4年度 自己評価結果

長居幼稚園

## 1、本園の教育目標

今やっておかないといけないことは何か、今しかできないことは何か。  
人はひとりひとり育っている環境も、発達の段階も、性格や体質にも違いがあります。そのひとりひとりの違いを大切に考え、その子どもにとって何が大事かを念頭に置き、集団での生活や遊び、自然体験を通して、生きていくための力、知恵、人としての心を育みます。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

コロナ禍で規制されることが多いが、できないことを考えるのではなく、どこを変えればできるようになるか、または、新たなものができるかを考え、コロナ禍でも子ども達にとって有意義な楽しい保育ができるよう取り組んでいく。

## 3、評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目  | 取組状況  |
|---|---|
| 園の教育目標・教育方針に基づき、コロナ禍での状況を踏まえながら、保育を計画し実施する。     | 昨年度に引き続き、感染対策を徹底しながらも、過度に避けるのではなく、この時期の子どもにとって大切な心身の発育、体験を妨げないよう、工夫して保護者と共に取り組んでいる。                       |
| 子どもの実態を的確つかみ、具体的な手立てを講じる。                       | 日々の子ども達の変化や成長など状況を園全体で把握し、個々の幼児に適した援助を行っている。  |
| 一人ひとりの子どもの違いを認め、その子どもの良さを評価していく。                | 一人ひとり様々な個性を持った子どもがいる中で、他者と比べることなく、子どもの違いを認め、評価している。子ども達もぶつかり合いながらも互いの違いを認め育ちあっている。                        |
| 思う存分遊ぶ時間や環境を保証し、遊びから得る学びの大切さを理解する。              | 自発的な遊びを大切にし、子ども自らがやりたい遊びに没頭できる環境を日々共に作り出している。自らの発見や感動、試行錯誤、他者への伝達、失敗、友達との葛藤など様々な体験が子ども、保育者共に豊かな学びとなっている。  |
| 地域や保護者の方々などとの繋がりを持ち、人的環境の影響を受けながら豊かな人間関係を育てていく。 | コロナ禍ではあるが、必要以上の規制をすることなく、保護者や園外の方々との交流は続けている。老人ホームとの交流訪問や招待、行事のプレゼントや手紙などで交流している。収穫祭など大勢の地域の方との交流がまだできない。 |

|  |   |
|--|---|
| <p>防災・防犯訓練を行い、自身で身を守ることの大切さをしり、安全への意識を高める。</p> | <p>火災、地震、水害、竜巻、防犯訓練及び、それらの複合訓練を毎月 1 回行う。こども、保育者共に抜き打ちで行い、その時の状況をしっかり把握し、的確な指示が出せるよう、また、こども達もすぐに避難行動が取れるようにしている。あらゆる状況を想定して、訓練を行い時間や場所も様々に変え行っている。</p> |
|--|---|

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

|   |
|---|
| <p>・予想以上のコロナ禍が続き、感染予防を行いながらの保育ではあるが、状況をしっかり捉え、過度な規制はせず、どうすれば違った形でできるか工夫して保育を行えた。戸外での遊びを多く取り入れ、マスクを外す時間も長く持つことができ、こども達の心身の成長や健康、自由な遊びからの学びを保つことができた。</p> |
|---|

#### 5、今後取り組むべき課題

|  |
|--|
| <p>・地域交流をどう取り組んで行くか、園の外部への状況発信をもう少し行っていくべきではないか。</p> <p>・コロナ禍で取り組めていなかった園舎の老朽化している部分の修理を行い、より快適に過ごせるようにする。</p> |
|--|

#### 6、財務状況

|                                       |
|---------------------------------------|
| <p>公認会計士監査により、適切に運営されていると認められている。</p> |
|---------------------------------------|